

プロジェクトテーマ：移動がスムーズなまちづくり

市政100周年を迎える岸和田市まちづくり事業の活動と連携し、新しい移動手段と基幹交通が調和したモビリティポートによる“にぎわいの拠点”づくりに向けた実証実験を行います。
 地産地消の経済拠点となる道の駅『愛彩ランド』を起点とした、新たな移動様式を検証します。



泉州山手 未来への懸け橋 プロジェクト ~ 次の100年へ、新たな拠点を作ります。 ~

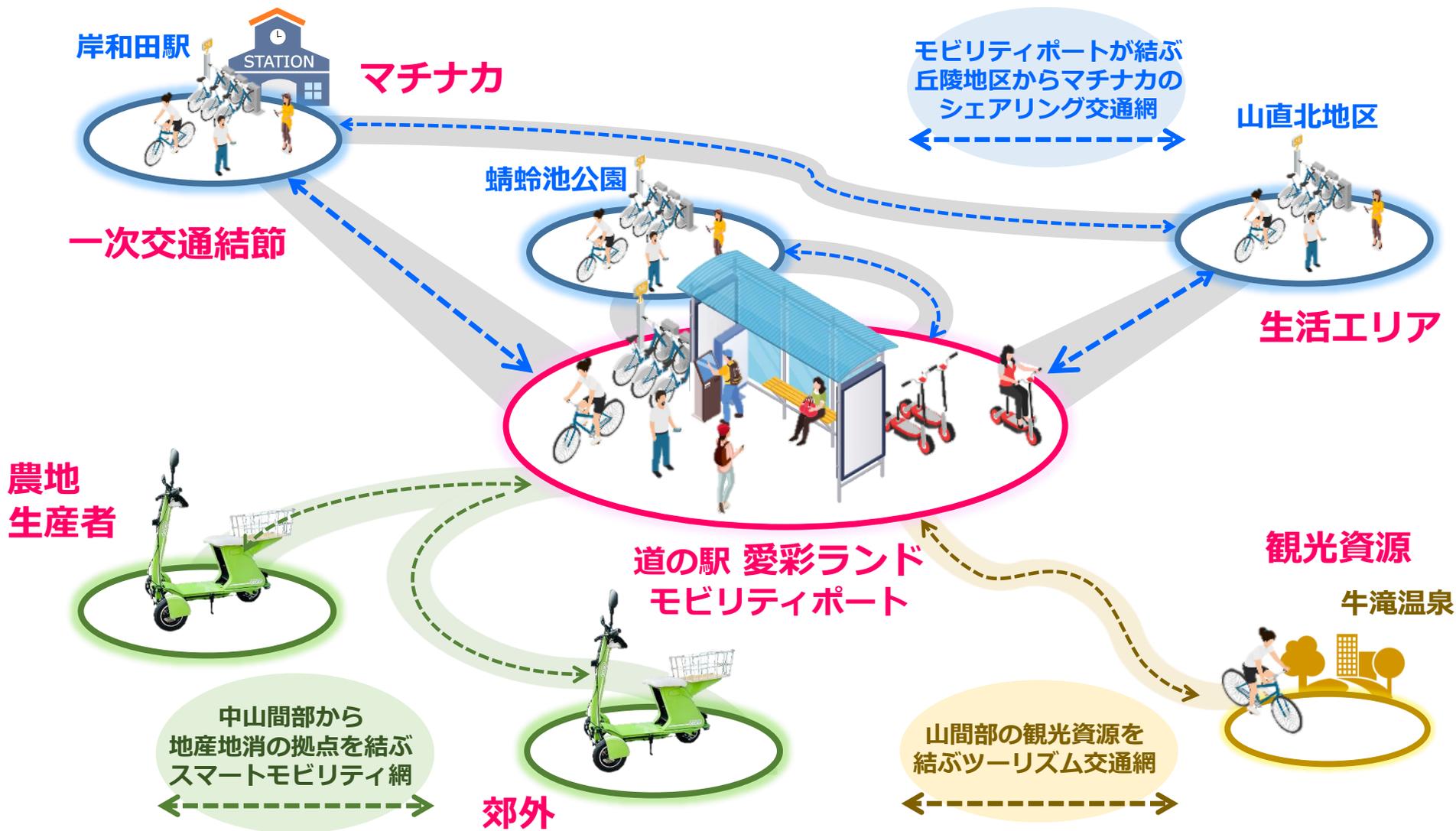
100周年である令和4年度に向けて、モビリティポート（多様な交通機能をつなぐ交通広場）を整備し、公共交通の充実を図ります。

道の駅『愛彩ランド』にモビリティポートを併設し、郊外とまちとの循環を創り出すと共に、地域の移動・経済の活性化をめざすべく社会実装の検証を行います。



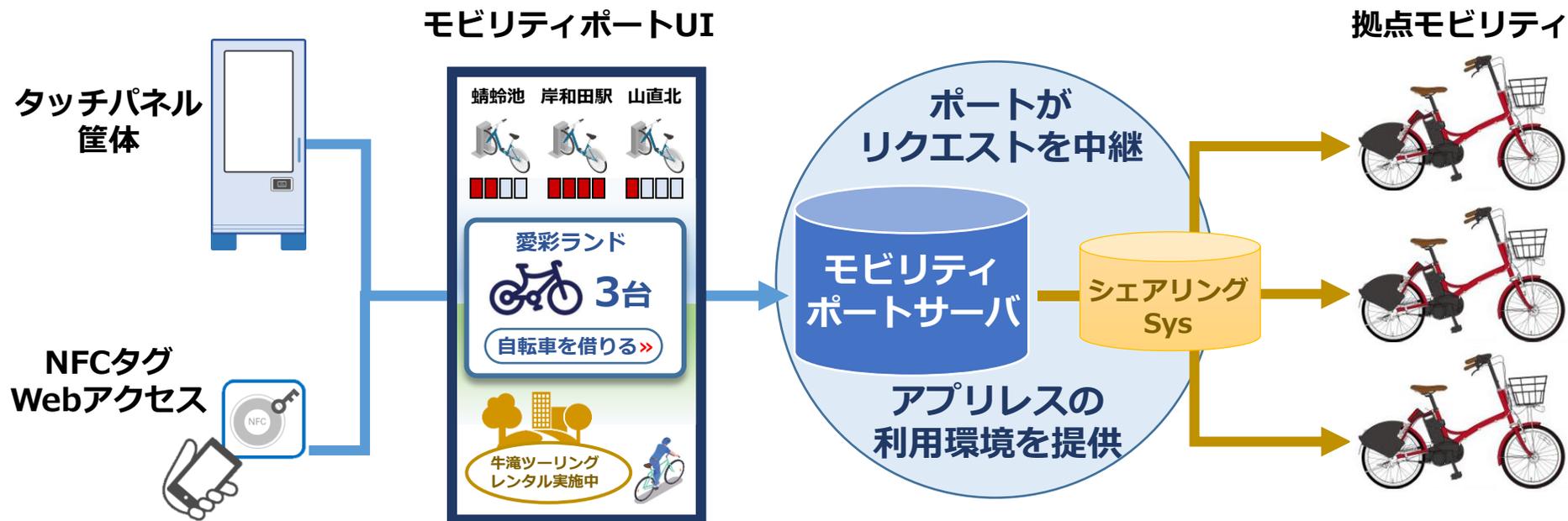
岸和田市：令和3年度スマートモビリティ実証実験

モビリティポートは複数モビリティの交差点として、マチナカ・丘陵地区・中山間部・山間部を結びます。



実証内容①：モビリティポートの情報連携機能

モビリティポートに実装する1機能として、アプリレスでのモビリティ利用環境を提供します。



一次交通結節

モビリティポートの中継・発信機能を検証

岸和田「市外」からの流入が発生する駅周辺でモビリティポートを介して広域な利用者の発生を検証します。

また道の駅から温泉エリアへ向かう「観光資源」の連携について、モビリティポートの情報発信による回遊誘引を検証します。

実証内容②：パーソナルEVによる中山間部の交通検証

高齢化が進む中山間部において3輪の軽量電動バイクを導入し、交通と環境の両課題の解決を検証します。

細い生活道に対応するパーソナルEV



地産生産物の搬入




ゆめみヶ丘
岸和田

自然や農空間と交通の両立

近隣生活者による地消



道の駅 モビリティポート

複数モビリティの発着場所として導線検証

マチナカの電動アシスト自転車・中山間部のパーソナルEV・山間部に向かうシェアリングEVが「道の駅」で交差する実証となります。

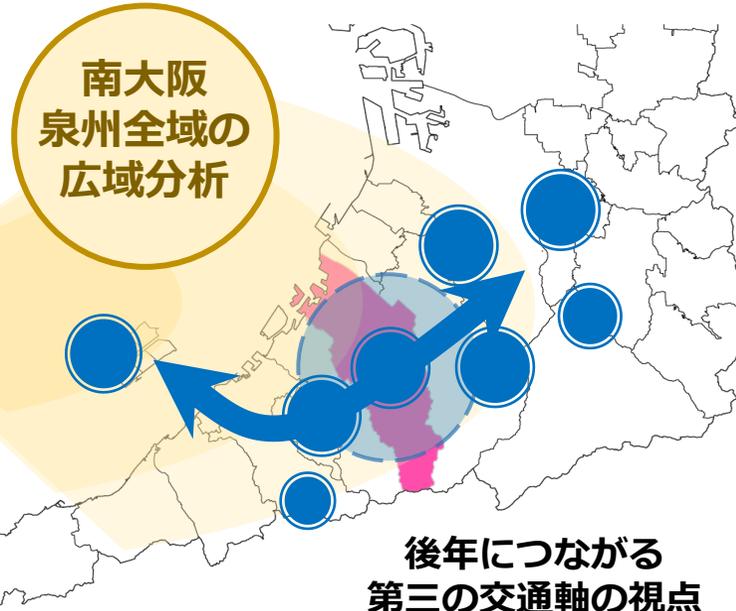
実証実験を通じてスマートモビリティの拠点に求められる機能性を評価し、モビリティポートの実現を目指します。

実証内容③：人流解析による市内交通網の分析

モビリティ導入による市民参加と同時に位置情報データを活用した市内交通の変化を調査します。



位置情報を用いた
人流解析

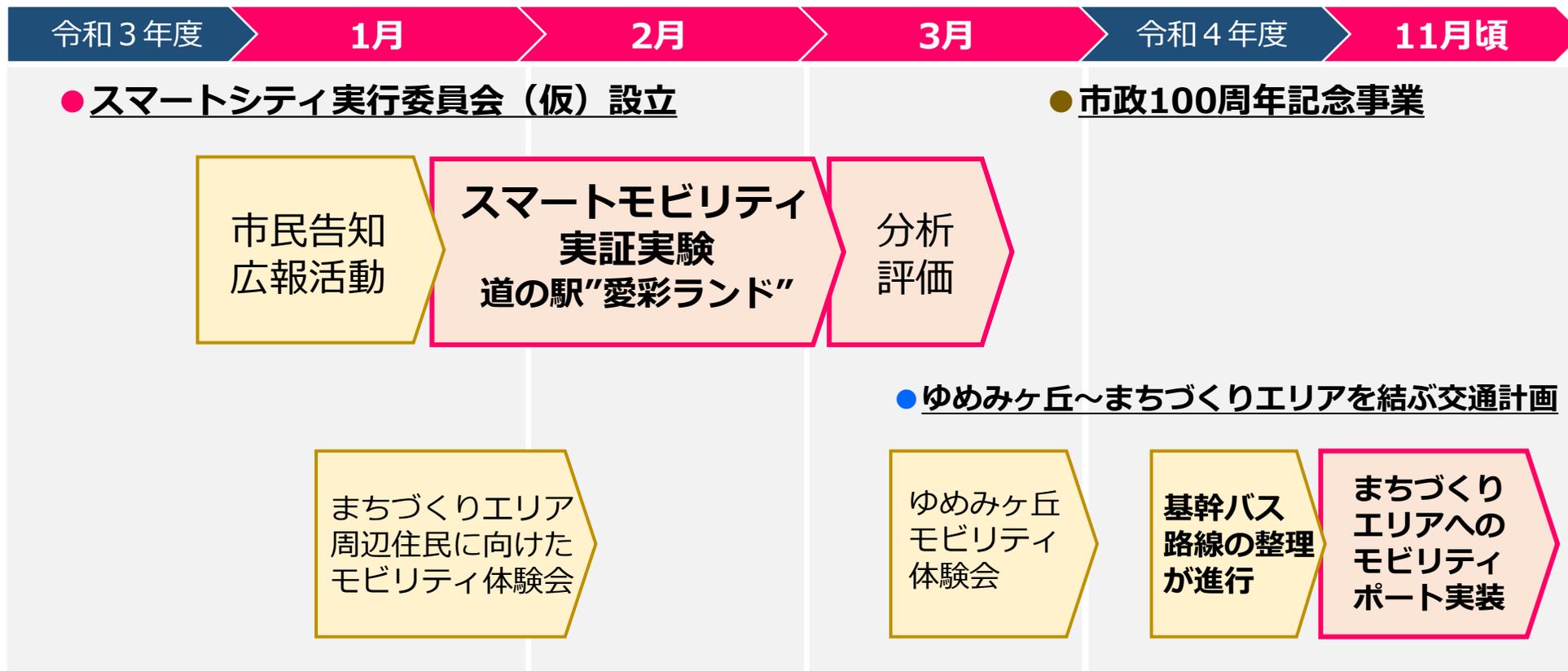


パーソナルモビリティによるヒトの周遊を評価

実証前後の人流、モビリティログなどを活用し、パーソナルモビリティの与える都市交通の変化や、主要施設への移動経路を分析。モビリティポートの立地と周遊性、市内外の相互交通の在り方を評価することで、広域での移動活性につながる基礎データを獲得します。

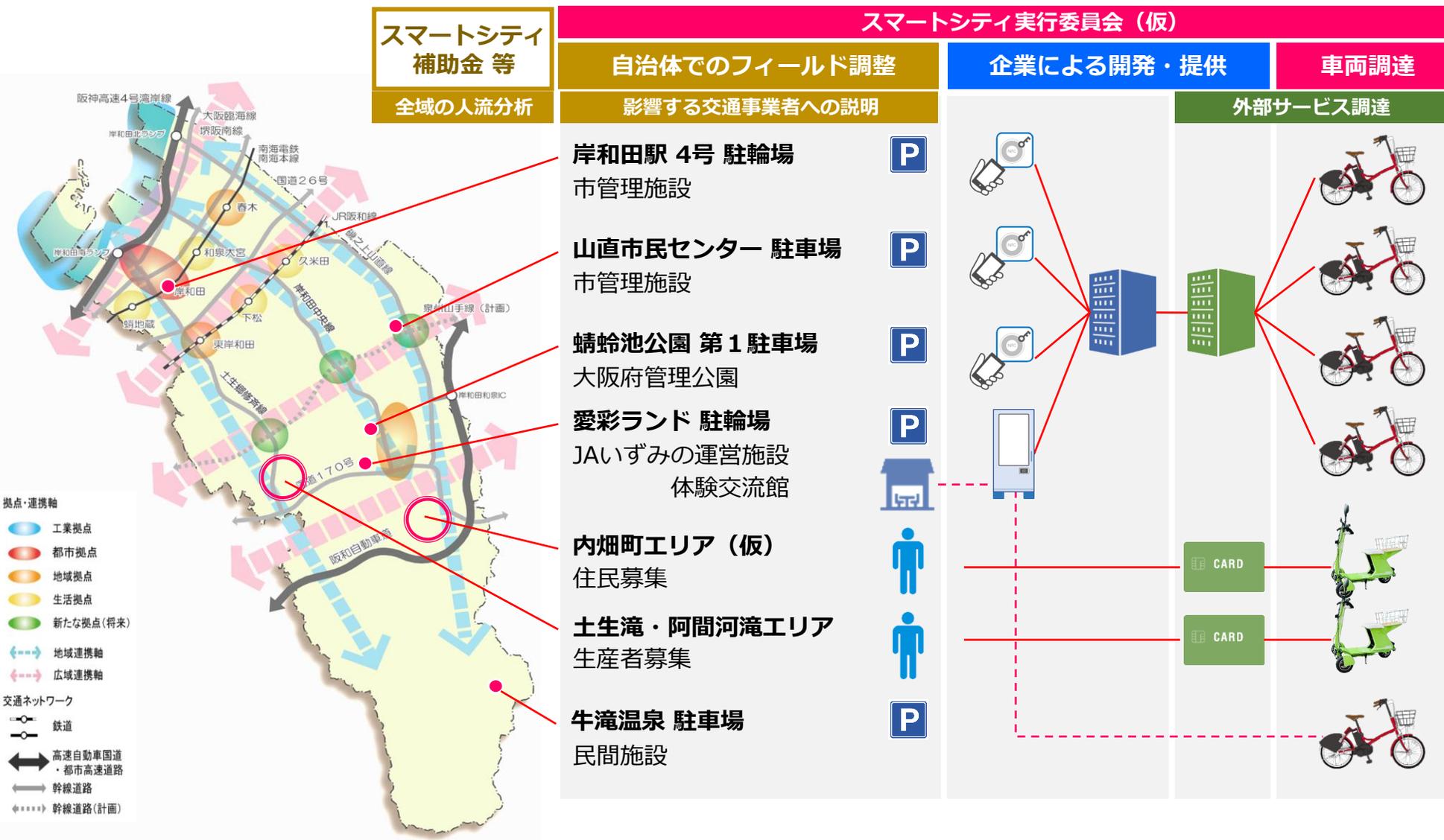
今年度及び来年度のスケジュール

令和3年度の実証実験において、道の駅“愛彩ランド”へモビリティポートを設置・検証。運用して得た改善点など成果を持って、令和4年度より“まちづくりエリア”に実装する予定です。



まちづくりに連動 将来の土地活用や事業化に適したモビリティ拠点として発展させていきます。

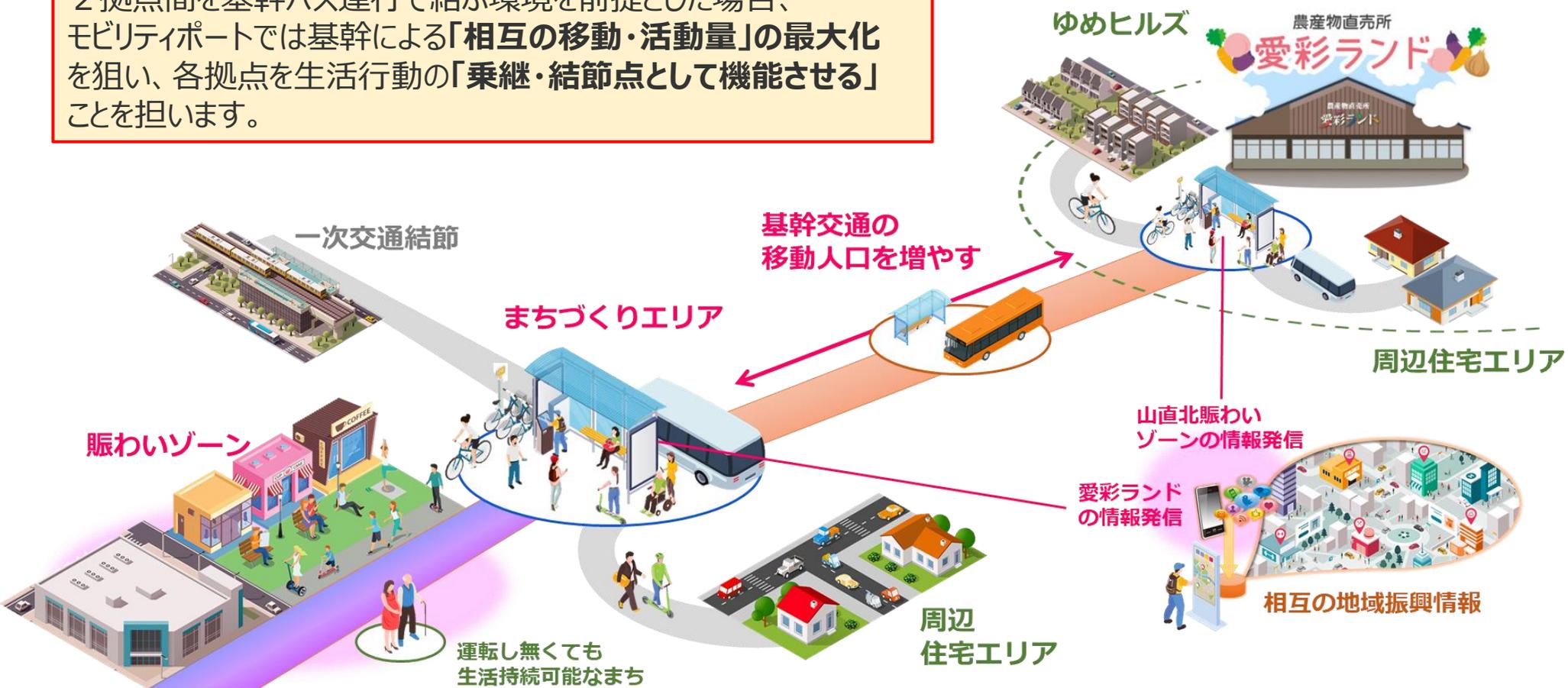
令和3年度の実証実験では、当年調整可能な予算範囲で公民で実証案を検討し、自治体では主に実証フィールドの調整を行い、企業ではサービス手法の開発と提供を担い、実行委員会方式で運営します。



モビリティポートによるまちづくりの計画

実証実験において、中核拠点での交通結節、観光資源間の移動誘引を検証し、令和4年度からはウォークラブルなまちなかの形成に向けて活動します。DNPでは、ヒトの活動量を増やしながら、地域経済の循環を促すための情報発信を強化し、地場事業によるマネタイズを目指します。

2 拠点間を基幹バス運行で結ぶ環境を前提とした場合、モビリティポートでは基幹による「相互の移動・活動量」の最大化を狙い、各拠点を生活行動の「乗継・結節点として機能させる」ことを担います。





移動がスムーズな
まちづくり

- STEP① : プロジェクト賛同自治体と有効性や課題を検証
- STEP② : 都市間連携・地域課題にマッチするモビリティサービスの最適組合せ
- STEP③ : 人の交流する小さな拠点・コミュニティ機能の獲得

STEP①

特定地域での有効性検証

STEP②

都市間連携・モビリティ拡張

STEP③

拠点・コミュニティ形成

複数モビリティサービスが結節し
スムーズに乗継ぎが可能となる
モビリティポートの有効性を検証。

一次交通との結節を加えた
都市間の移動連携を実証。

交流人口を伸ばしコミュニティと
しての機能を獲得し、地域に
根付くサービスモデルを創出。



人の移動が交差する
“にぎわい”の創出

※STEP②における具体的な取組方法





多様な移動サービスを結ぶことで人の交流を起こし、地域活性に繋げる

ご清聴ありがとうございました。

DNP

×

 **損保ジャパン**
SOMPO 保険の先へ、挑む。